京都外国語大学校友会教志会
令和７年度英語教育実践報告研究会　報告書

日時　：　2025 年(令和 7 年)7 月 26 日（土）
13 時－18 時 30 分
場所　：　京都外国語大学 1 号館　7 階
参加者　：　59 人



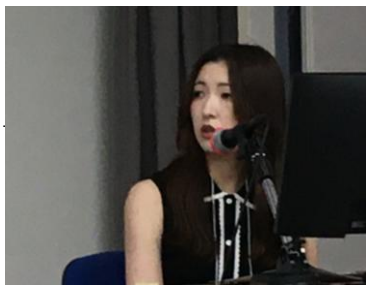
1）開会挨拶　教志会　会長　樋口　一哉

2）講演
講師　京都外国語大学　外国語学部　英米語学科　教授
杉本　義美 先生
演題　「指導と評価の一体化の現状と課題～今求められる英語授業～」
現行の学習指導要領の実施から数年が経ち、指導の再検討及び、評価との一体化のさらなる推進が必要な時期に来ていると切り出され、学校現場で今まさに起っていることを実例として挙げながら、進むべき方向を示された。インプットとアウトプットの両指導及び、評価において、一連のディスコースや実際のコミュニケーション場面を意識して行うことの重要性など多くの側面に触れられるとともに、より良い授業を行うための２２項目から成る英語授業チェックリストを紹介された。



3）実践報告　3 名

① 宝塚市立すみれガ丘小学校　戸井本（どいもと）　桜子 先生
「小学校外国語科における授業実践～意欲を引き出す言語活動を目指して～」
楽しみながら取り組めるよう工夫された帯活動で児童の意欲を高めたり、相手意識をもって必然性のある課題に取り組むことで、児童の伝え合いたい気もちを引き出したりすることを大切にされている。台湾の小学生とのオンライン交流の様子や、タブレットを効果的に活用した実践を紹介された。



② 京都市立七条中学校　稲田　万紀子（まきこ） 先生
「生徒の『伝えたい』を引き出す授業
～パフォーマンステストを通じた挑戦～」
学習意欲は高いがスピーキングが苦手な生徒たちから、伝えたい思いをいかに引き出すか…アウトプットを支える三要素として「大量のインプット」「動機付け」「最低限の文法説明」があることを見出された。四技能を、意図をもって自由自在に組み合わせた授業を通して、生徒が知らず知らずのうちに伝えることの面白さに引き込まれていく様子を紹介された。



③ 大阪府立山本高等学校　丁（てい）　秀一 先生
「コミュニケーションの楽しさを伝える Small Activity」
英文法指導や訳読指導が単技能のみで構成される授業を変革するために、ICT 機器を効果的に活用したテンポの良い授業展開を学校全体で推進しようとされている。ICT 教材が溢れ一人でも英語が学べる現代だからこそ、学校で仲間と学び合う意味を問い直し、コミュニケーション中心の授業を通して生徒が楽しみながら学ぶ様子を紹介された。



4）閉会挨拶　教志会　会長　樋口　一哉

5）懇親会　16 時 45 分－18 時 30 分　4 号館 6 階ラウンジ
参加者が和やかに情報交換する良き場となった。



以上
文責　教志会役員　松本　友美